

大きな



大きな輪より
謹んで新年のお慶びを
申し上げます

The U.S. Forces Okinawa Joint Communication Conference 在沖米軍渉外担当連絡会議



U.S. Marine Corps Col. Neil J. Owens, director of MCIPAC G7, Government and External Affairs, addresses common issues and barriers USMC Okinawa face with external communication efforts around the island to the audience at the U.S. Forces Okinawa Joint Communication Conference at the Rocker Enlisted Club on Kadena Air Base on Oct 29. Fifty-five public affairs and communication strategy personnel from 17 organizations throughout Japan including U.S. Embassy Tokyo and the U.S. Consulate General, Naha, participated with precautions against the coronavirus.

嘉手納米空軍基地のロッカー下士官クラブで開催された在沖米軍渉外担当連絡会議で、在沖海兵隊政務外交部長ニール・J・オーウェンズ大佐が沖縄周辺の外部情報の取り組みに直面した共通の問題や障壁について参加者に説明。東京の米国大使館、那覇の総領事館を含む17団体から、55人の広報・情報戦略担当者がコロナウイルスに対する予防措置を講じた上で参加。＝2020年10月29日、嘉手納米空軍基地 (Photo by Yoshie Makiyama)

各基地渉外官へのお問合せ

基地渉外官は、在沖縄米海兵隊各基地と地域社会との架け橋です。各基地の渉外プログラムについては右記までお問合せください。電話でのお問い合わせは以下の通り。メールでご連絡される場合は、okinawa.mcbb.fct@usmc.milまで。件名の欄にお問い合わせ先のキャンプ名をご記入ください。

シュワブ(名護市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 625-2544

ハンセン(金武町)
098-969-4509

コートニー(うるま市)
098-954-9561

フォスター(北谷町・他)
098-970-7766

普天間(宜野湾市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 636-2022

キンザー(浦添市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 637-1728

大きな輪

〒901-2300
沖縄県北中城村石平
在沖縄米海兵隊基地
BLDG.1, COMMSTRAT (UNIT 35001)
大きな輪 編集係

電話番号: (098) 970-1220
ファックス: (098) 970-3803
メール: okinawa.mcbb.fct@usmc.mil

「大きな輪」は、性別・年齢・国籍を問わず、多くの読者の皆様のご意見、ご感想、ご質問をお待ちしております。氏名、住所、電話番号を明記の上、ファクシミリ、メール、または封書にて上記の「大きな輪」編集係までお送りください。



On the cover (FOLEST pg 3-4)

The Garrison flags fluttering at the Bldg1, Camp Foster, Jan. 10, 2021.

風にはためくガリソン旗

＝2021年1月10日、キャンプ・フォスター－Bldg1

(Photo by Yoshie Makiyama/横山由江)

Photo illustration by Daniel Yara. This image used a different background / 写真は屋良ダニエルによって背景が変更されています

広報企画運用 部長より 新年のご挨拶



(Photo by Cpl Christopher A. Madero)

新年あけましておめでとうございます。私は海兵隊中佐のヒルトンと申します。米海兵隊太平洋基地広報企画運用部で部長を務めています。沖縄に赴任してまだ日が浅いのですが、私も家族ともども、初めての沖縄赴任となります。赴任して以来、これまでの生活は、私たちにとって期待以上のものとなっています。私たちは、この島で色々なものを見たり、地域の一人となって文化に触れることを楽しんでいます。年末年始の祝日が近づき、特に新年には、人々にとって神社がとても重要な場所になると聞きました。そして、その意味をより理解するために、その特別な場所を私もぜひ訪れてみたいと思いました。

これから先、沖縄に住み、沖縄の伝統に触れ、ここで得たものを私たち家族の生活にも取り入れていけたらと考えています。この時期は、一年の中で皆さんにとっても、私たち家族にとっても大変特別な時間です。皆さんがこの特別な時間を共に楽しみ、そして、一緒に祝うことができない人たちとも、また新たな方法で共有できるよう願っております。

ありがとうございます。そして、今年もどうぞよろしくお願い致します。

Director's Greeting

I am Lt. Col. Hilton and I am currently the director of the Communication Strategy and Operations office for Marine Corps Installations Pacific. I

am very new to the island and this is the first time my family and I have been and or lived on Okinawa. So far being here has exceeded all expectations. We are excited to see this island, be a part of the community and learn about the culture. As we approach the holiday season, I was told the shrines are very important especially on New Year's. I wanted to visit and respect a special place on Okinawa to get a better understanding of its importance.

As we live here longer, I hope we understand the traditions of Okinawa and be able to incorporate them into our own family traditions. This time of year is special to my family as well as many other families here and we all hope to enjoy the time together and find new ways to be with those we can't, as we celebrate each special holiday.

Arigato Gozaimasu and Happy New Year!

もくじ

2	広報企画運用部長より ご挨拶
3	フォレスト紹介 キャンプ・フォスター&レスター 渉外官による情報誌
5	童心に返って 海兵隊員、コロナ禍で新たな試 み、読み聞かせ寸劇
6	全ては子供達のために 地元園児、海兵隊試行錯誤の読 み聞かせ楽しむ
9	海兵隊員が溺れる女性 を救う
10 2 13	海兵隊基地司令官より 新年のご挨拶
14	基地内小学校父母がカ ボチャくり貫き実演
17	平和学習を考える 地元教育関係者、キンザー沖繩 戦歴史資料館を視察
19	海兵隊員が沿道草刈り 地域美化に意義見出す

基地内イベント情報は

<https://www.japan.marines.mil/Event/>
読者の声は今号は紙面スペースの都合
上、お休みさせていただきます。

Big Circle was called "Okina Wa" from the first issue in July 2002 to the 15th issue in Spring 2006. We put "O-kina-wa" in the way close to Japanese pronunciation.

大きな輪は2002年7月創刊号から2006年春の第15号まで「Okina Wa」と表記されていましたが、私達は日本語の発音に近い形で「O-kina-wa」とタイトルに示すことにしました。

フォレスト紹介

フォレスト第3号 1998年発行

「フォレスト」はキャンプ・フォスター&レスター渉外官である富村浩子さんによって1998年以来発行されている二か国語のニュースレターです。フォレストは英語ではなく、フォスターとレスターを組み合わせた造語。キャンプ・フォスターとレスター近隣の役所や飲食店に配布されています。「大きな輪」では、基地の中と外の生活様式の違い等を紹介しているこの情報誌を掘り起こし、取り上げています。



フォスターレスターニュース



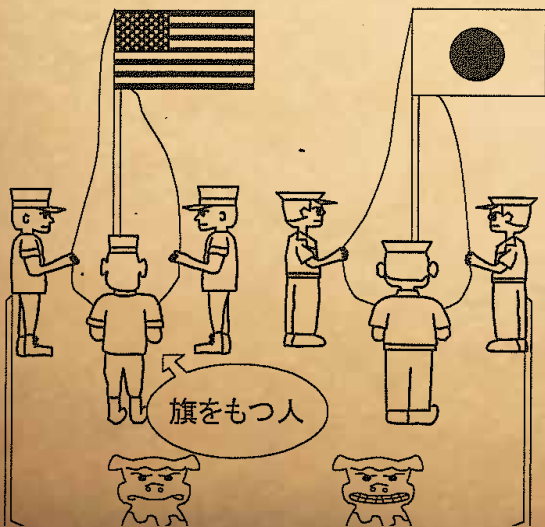
■ キャンプ フォスターといえば何を思いうかべますか？ 答えはいろいろでしょうが、フェンスの外からも目立つ上、テレビにもちよくちよく映される北中城村 石平交差点近くの国旗をイメージする人も多いのではないのでしょうか。その場所にたてられているのは在沖海兵隊基地の司令官事務所があるからです。

■ でも知っていますか？ 日によって3種類のサイズの旗が使い分けられていることを... 今度近くを通る機会があったらどのサイズの旗なのか見てみて下さい。旗の種類とサイズは次の通り。

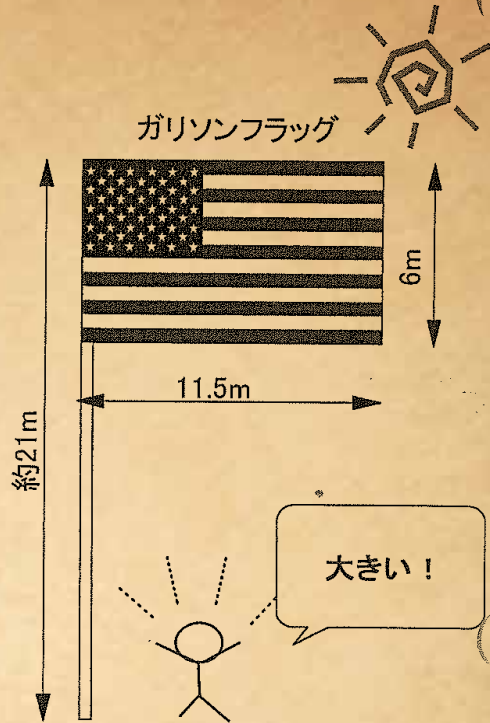
- ▶ ポストフラッグ (3m x 5.8m) 天気の良い日
- ▶ ストームフラッグ (1.5m x 2.9m) 天気の悪い日
- ▶ ガリソンフラッグ (6m x 11.5m) 日曜日、米国祝祭日など

■ 高い階級の米国官僚の喪中には星条旗が半旗、通常の半分の高さに掲げられます。また、国旗を尊厳する意味で折りたたむ際には旗は地面に触れてはいけなとか。両旗とも旗ざおから外された後はきれいに三角形に、特に星条旗は星の部分が見えるように折りたたまれます。まるで折り紙みたいですね。

■ また、旗ざおの建っている場所にはちゃんとペアのシーサーもあります。1対のシーサーは沖縄では魔除けとされています。



ガリソンフラッグ



■ キャンプ フォスターの旗はMP(軍警察)と日本人警備員によって毎日朝8時に揚げられ、日没時に降ろされます。私は実際この様子を近くで拝見させてもらったのですが、双方ともとても真剣で、歩調もぴったりだったのですごい！と思いました。(左図参照)MPと日本人警備員が共に頑張っている姿はカッコいいものです。

■ 旗揚げの際、モーニングカラーと呼ばれる音楽が始まると、車を運転している人以外の屋外にいる兵隊たちは立ち止まって、国旗に向かって敬礼をします。初めてこれを見たときは“突然みんなどうしたんだろう”と不思議でした。アメリカ人は国旗に敬意を払っています。これも文化の違いの1つでしょう。

注： 2019年制定の国家POW/MIA（戦争捕虜・行方不明者）旗法に基づき、指定米国連邦施設において米国国旗が掲げられる全ての日に、POW/MIA旗が掲げられることとなっている。

フォレストに関してのお問合せは直通の098-970-7766 渉外官富村まで

フォレストは第20号でフォスターレスターニュースからフォレストへ改名されました。
(1998年発行のため、内容等に変更がありますので、注釈を入れている場合があります)



Introducing **FOLEST** *Third Issue* Published in 1998

FOLEST is a bilingual newsletter that Ms. Hiroko Tomimura, Camps Foster and Lester community relations specialist, has been publishing since 1998. FOLEST is an acronym that combines portions of both the Foster and Lester names. It has been distributed to local government offices and several restaurants around Camps Foster and Lester. Big Circle is republishing FOLEST to share the information of differences in people's lifestyles on and off base.



FOSTER LESTER NEWS



■ **What is your image of Camp Foster?** The answer will be varied. One of the most common answers are flags on the hill at the Ishihira Intersection of Kitanakagusuku Village. They are visible from off base and also shown on TV often. They are located there because there is an office of the Commanding General of the Marine Corps Base Okinawa.

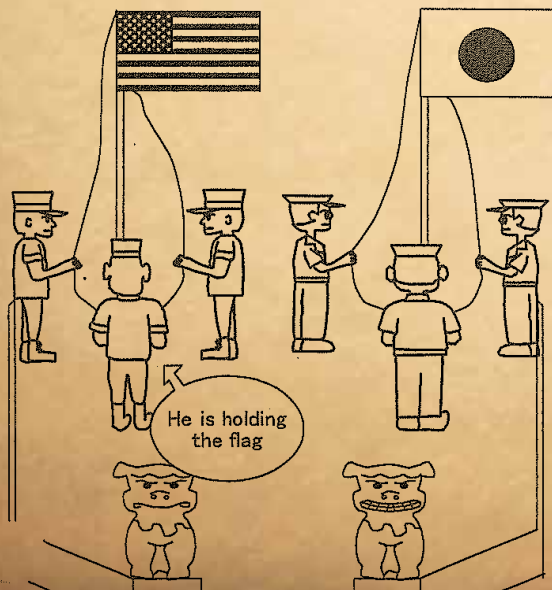
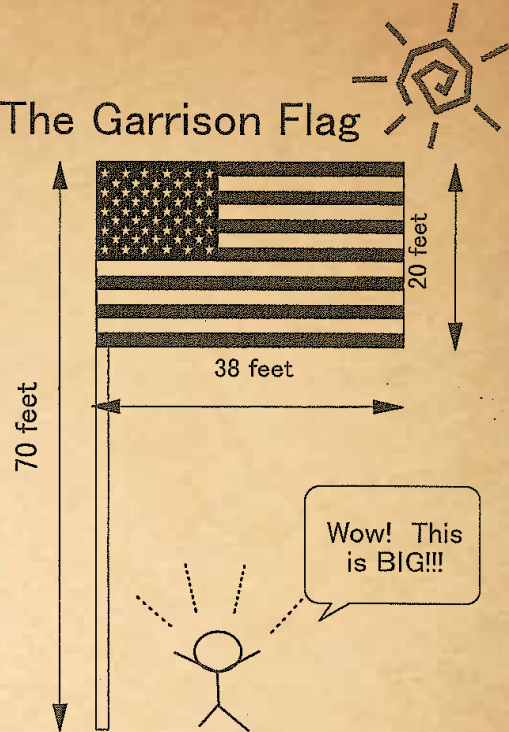
■ **But did you know there are three sizes of flags which are used on different occasions?** Check which flags are posted next time you pass the area. The types of the flags and sizes are as follows.

- ▶ **THE POST FLAG** (10 feet by 19 feet) It will be displayed in pleasant weather.
- ▶ **THE STORM FLAG** (5 feet by 9 feet 6 inches) it will be displayed in inclement weather.
- ▶ **THE GARRISON FLAG** (20 feet by 38 feet) It will be displayed on Sundays, and on the holidays and other national occasions.

■ **U.S. flags are half masted during the funeral of high ranking U.S. officials.** Also, flags are not supposed to touch the ground out of respect, and they are folded neatly to a triangle showing the stars part. It sounds like "Origami", doesn't it?

■ **Additionally, there are a pair of Shi-sa lions at the bottom area of the flag poles.** They are common Okinawan charm which keeps evil spirits away. Pretty neat, isn't it?

The Garrison Flag



■ **The American and the Japanese flags at Bldg 1 on Camp Foster are raised every morning at 0800 and lowered every evening at Sunset.** This is done by Military Police and Japanese Security Guards very professionally! I've seen both events and was impressed with their synchronization and timing. It was so cool to see the MPs and the JSGs working together in outstanding manner. (See left)

■ **When the morning colors (the music) are played, all Marines outside (except who is driving a car) stand still and salute the flags until the music ends.** The first time I saw this, I wondered what was wrong and why they suddenly stopped walking and saluted! Americans respect their flag very much. This would be one of the cultural differences.

Note (Update): The "National POW/MIA Flag Act" was enacted in 2019 and the POW/MIA flag needs to be displayed on all days that the flag of the United States is displayed on certain Federal property.

Any questions on FOLEST, contact Ms. Tomimura: 098-970-7766 (direct line)

The name was changed from FOSTER LESTER NEWS to FOLEST on its 20th issue. (There may be corrections made for the change in contents due to its publication date.)

童心に返って 海兵隊員、コロナ禍で新たな試み、読み聞かせ寸劇



The Marines and volunteers from the local community wave their hands for help behind a giant sheet of paper with popcorn drawn in a story time skit.

ポップコーンの絵が描かれた巨大な紙の後ろで手を振って助けを求める演技をする海兵隊員と地元のボランティア。

10月20日、最寄りの小学校で登校時の横断歩道見守りボランティアを終えたばかりの4人の海兵隊員が、北谷町の北玉公民館で何か新たに作り組むための準備をしていた。彼らは絵本のシーンに命を吹き込むという俳優デビューを迎えようとしているのだ。

キャンプ・フォスター&レスターの富村浩子渉外官によると、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の学校は部外者の出入りを制限し、できるだけ混雑を避けている。そのため、隊員達の読み聞かせを行うことが出来ない。富村渉外官は「そこで、すべての問題を解決する案として、『録画された』読み聞かせのDVDを学校に提供することを提案してみました」と説明した。

隊員に本を手渡ししながら、富村渉外官は1人は絵本を読み、残りの3人はシーンの演技をするよう伝えた。彼らは最初、誰も周りに聞く人がいない上に録画について知らされていなかったため困惑していたが、彼女は手作りのコスチュームやポップコーンなど、劇に必要なものを渡し続けた。

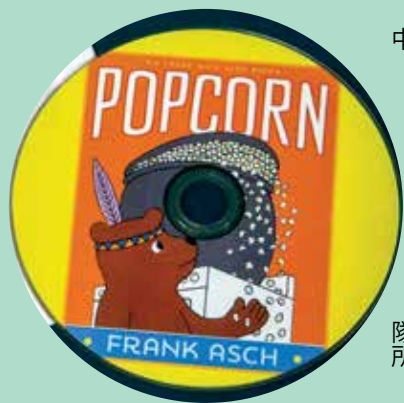
2010年から地元の小中学生を対象に海兵隊員と読み聞かせを行ってきたが、後日観賞するための寸劇を使った読み聞かせの録画は富村渉外官にとっても初めての試みだった。

本は、フランク・アッシュの「ポップコーン」だった。ハロウィーンが間近に迫っていたので、富村渉外官は子供たちに録画されたDVDでハロウィーンの雰囲気を楽しんでもらいたいと願っていた。

彼女がディレクターだった。舞台上にいる隊員に、初めに英語で読まれる話を聞いた後、日本語が読まれている間に演技をするように指示した。

リハールは1回だけのぶっつけ本番の演技だった。隊員はリハールのはじめは恥ずかしそうにしていたが、本番では、全員が堂々と演技した。

「2か月後に21歳になるのに、子供に返った気がしました」と米海兵隊本部業務大隊のネイサン・R・マクレーン兵長は言った。「準備する時間があればもっと上手に出来るけれど、初めての演技にしてはうまく出来たと思います。」
隊所 普天間航空基地本部及び本部



属、クリント・A・ライダー伍長は、「読み聞かせをしたことがなかったので、新鮮でした。私が言っていることを子供たちが理解し、お話が好きになれるように、子供たちにとってもっと面白く、はつきりと伝わるようにしようと思いました」と努力を語った。

寸劇参加後、謝荊区長の德里徹さんは笑顔で「海兵隊と一緒には何かをすることはめったにありませんが、子供たちのために、一緒に寸劇をしたのは良かったです。楽しい時間でした。このような演技をしたのは小学校以来でした」と感想を述べた。

富村渉外官は受け取ったDVDに満足していた。ラベルは「ポップコーン」の表紙の絵であった。彼女は、読み聞かせのDVDを学校に提供するとき、このラベルの絵が学校関係者たちの目に魅力的に映る事を望んだ。

寸劇にも参加した北玉区長の崎濱盛善さんは、「子どもたちはきっと気に入ると思います。大人たちが頑張ってくれたので、子どもたちはうれしいと思います」と語った。

追記記事 「全ては子供達のために地元園児、海兵隊試行錯誤の読み聞かせ楽しむ」

文・写真 横山由江

6ページへ



全ては子供達のために 地元園児、海兵隊試行錯誤の読み聞かせ楽しむ

先生の後ろに一列に並んだ子供たちが行進すると、色とりどりの帽子の列が学校の運動場脇の路地に沿って移動した。

10月30日、ハロウィーン前日の朝、在沖海兵隊キャンプ・フォスター&レスターに隣接する北谷町の謝荊公民館に北玉幼稚園の4歳と5歳の51人の園児たちが集まり、コロナ禍での新しいハロウィーンの楽しみ方を体験した。子供達のこの日の目的は読み聞かせだったが、その時間になっても、子供たちの前にあるものはステージ上の大きな白いスクリーンだけだった。彼らの前に本を持っている人は誰もいなかった。

電気が消えると、園児の一人が映画みたいだと言った。読み聞かせが始まった。画面には絵本の絵が映し出された。そして本を読む声が聞こえた。「英語だー」数名の子供たちが叫んだ。英語が終わると、次は日本語だった。画面上の絵本が消えるとすぐに、子供たちは帽子やマスクや衣装を身に付けて3人の外国人が代わりに立っているのを見た。DVDで寸劇を交えた読み聞かせを鑑賞することがその日のイベントであり、新型コロナウイルスの感染を心配せずに読み聞かせを行う新しい方法だった。

キャンプ・フォスター&レスターの富村浩子渉外官は、新型コロナウイルス感染症発生以来、子供達が海兵隊員との読み聞かせの場を以前のように持っていないことに気が付いた。彼女の読み聞かせ寸劇動画のアイデアは、読み聞かせの際に、海兵隊員が寸劇をしてそれを録画した時に実現したが、富村渉外官は、地元の学校関係者に連絡を入れ、彼らがこのアイデアを受け入れ、動画を子供たちに見せてくれることを願った。

「謝荊公民館がこのアイデアを受け入れてくれて、子供たちにDVDを披露してくれて本当にうれしいです」と富村渉外官は言った。「私はこのDVDを子供たちのために作ったので。」読み聞かせの本は、フランク・アッシュの「ポップコーン」だった。ポップコーンが家全体を埋め尽くすというクライマックスに達したとき、画面上のボランティアの隊員らがポップコーンの絵が描かれた巨大な紙の後ろに隠れ、手を振って助けを求めたとき、子供たちは騒ぎ、「爆発した!」と口々に言った。

彼らは次に何が起こるかを見極めるため画面を見つめた。全てのポップコーンが食べられたのを見ると、そんなことは無理だと言う園児もいた。読み聞かせの後で先生が園児の一人に自分の家でそれが起こったらどうするかと尋ねたとき、「捨てます」と、園児が答え、会場のみんなどは大笑いした。

物語の最後に、さらにポップコーンがお土産として主人公に与えられたとき、ある園児が英語で「オー、マイゴッドシュー!」と言い、部屋全体がもう一度笑いに包まれた。

海兵隊員と共に寸劇にも参加した謝荊区長の德里徹さんは、「子供たちが笑顔で興奮しているのを見て、うまくいって本当に良かった」と満面の笑みで語った。

「これまで海兵隊員の読み聞かせはありませんでしたが、子供たちが英語での読み聞かせを理解しているようで驚きました」と比嘉綾子副園長。「コロナが落ち着いたときには、生の読み聞かせができれば素晴らしいと思います」と次への期待を語った。

文・写真 横山由江



Children from Kitatama Kindergarten respond to the vice principal's question on a story time video of Marines reading and acting out the story.
『録画された』読み聞かせのDVDに関する北玉幼稚園副園長の質問に手を挙げる園児たち。



teers act in skit for story time recording

The Marines completed the video in one take, having rehearsed the story only once. Although the volunteers acted shy during the early stage of the rehearsal, when

the camera started rolling, they were energetic and motivated.

"I felt young again even though I will be turning 21 in two months," said Lance

Cpl. Nathan MacLain from Headquarter and Support Battalion. "If we prepared more, we could've done better, but I think we did well for the first time"

Lance Cpl. Clint A. Rider of Headquarters and Headquarters Squadron, Marine Corps Air Station Futenma, expressed, "I never read a book for a story time, so it was different. I tried to make it more interesting for the children and read it clear enough so children can understand me and enjoy the story."

After having taken part in the performance, Toru Tokuzato, district mayor of Jaagaru said with a smile, "although it is rare to do something together (with Marines), we did this

short play together for the children, and it was really good. I really enjoyed it even though the last time I have done such performance was when I was in elementary"

Tomimura was happy with the DVD she received from the Marines as they had printed the cover of the book to the disk. She thought it may be more appealing to schools when she provides it to them for their story time.

"I believe children will love it. They will see how hard the grown-ups tried for them, so children will be happy," Seizen Sakihama, headman of Kitatama District, who also participated in the short play ensured.

(Follow-up story below)

Story and Photo by Yoshie Makiyama



new style storytelling in pandemic

like this idea and show it to the children.

"I am glad Jaagaru Community Center took this idea with the DVD in and

showed it to children," said Tomimura. "After all, I made this for children."

The book selected was "Popcorn" by Frank Asch.

At the climax of the story, popcorn popped and filled up the whole house, and only the performers' hands could be seen waving for help behind a giant sheet of paper with popcorn drawn, children made commotion and shouted, "Explosion!"

They stared on the screen to find out what would happen next. When seeing all the popcorn was eaten by the characters, some said impossible.

"I would throw it away," a child replied when a teacher asked what he would do if that happened to his house after the video. Everyone in the hall burst into laughter.

At the end of the story, when more popcorn was given as a present to the main

character, one child in the room exclaimed "oh my gosh" in English and gave rise to a storm of laughter in the whole room again.

"It was a success. It was really nice to see children smile and excited," Toru Tokuzato, district mayor of Jaagaru, who was one of the players in the skit, said with a big smile on his face.

"We never had Marines' do story time in English like this for our children before, but I was surprised that children seem to understand it," Ayako Higa, vice principal of the Kitatama Kindergarten, expressed her surprise. "It will be great if we can have a live storytelling next time when COVID-19 settles."

Story and Photo by Yoshie Makiyama



Children from Kitatama Kindergarten watch a video of Marines reading and acting out the story.

『録画された』読み聞かせのDVDを鑑賞する北玉幼稚園の園児たち。



Embracing a youthful spirit: Marine volun

After volunteer as crossing guards at a nearby elementary school Oct. 20, four Marines prepared to do something new at Kitatama community center in Chatan. They were about to make their acting debut, bringing scenes from a children's book to life.

According to Hiroko Tomimura, community relations specialist for Camps Foster and Lester, the local schools limit access for outsiders and avoid crowds as much as possible due to COVID-19. Therefore, Marines cannot have story time with the children like they used to.

"I suggested giving the school a video of Marines reading and acting out the story to solve the problem,"

Tomimura explained.

Tomimura handed over a book and told one Marine to read and the others to act out the scenes. They were confused at first, because there was no audience for them and they were initially unaware that they were going to be on camera. Tomimura provided them with handmade costumes, popcorn and other necessary items for the play.

Even though Tomimura has coordinated volunteer opportunities for Marines to have story time with local school children since 2010, this was her first time recording a skit to be shown at a later time.

The book Tomimura chose was "Popcorn" by Frank

Asch. Since Halloween was around the corner, she hoped children would enjoy the Halloween atmosphere watching the video.

Tomimura directed the

whole performance. She instructed Marines on the stage to listen to the story read in English first and then take actions while Tomimura read in Japanese.



The Marines and volunteers from the local community perform in a skit for the story time recording.

読み聞かせの収録のために演技をする海兵隊員と地元のボランティア。

All for children: local children enjoy Marines'

A line of colorful hats moved along an alley behind the school playground as children marched behind their teachers in a single line formation.

In the morning before Halloween, Oct. 30, 51 children, ages 4 and 5, from Kitatama Kindergarten, located next to Camps Foster and Lester, gathered at Jaagaru Community Center in Chatan to experience a new way to feel Halloween under the COVID-19 pandemic.

The children were about to have story time, but all they could see was a big white screen on the stage. There was no one in front of them with a book.

As the lights tuned off, a child said it looked like a

movie (theater). The story time started. On the screen, a picture of a book was shown. Then they heard a voice reading the story. "English!" several children shouted.

When the voice in English stopped, a voice in Japanese repeated what was said. As soon as the pictures of the book on the screen disappeared, children saw three foreigners with hats, masks and costumes on the screen. Watching a storytelling video with a skit on DVD was the day's event, the new way to do a story time without worrying about the spread of COVID-19.

Hiroko Tomimura, community relations specialist for Camps Foster and Lester, realized that since the outbreak

of COVID-19, the children have not been able to have story time with Marines like they used to. Her idea for a prerecorded story time

became a realization when Marines helped her with the reading and acting. She planned to contact local schools, hoping they would





Stay vigilant, Marine's mindset saves woman's life at sea

気を抜くな、海兵隊哲学が溺れる女性を救う

What began as a normal weekend for a Marine from Marine Corps Air Station Futenma became an unforgettable day for one local swimmer who was caught in a rip current at Mermaid's Grotto, west of Onna Village and south of Cape Manzamo, Oct. 4.

Staff Sgt. Billy C. Dixon, a recovery crew leader with 1st Marine Aircraft Wing, spent his weekend at the popular snorkeling and diving spot. When he was preparing to leave for the day, the incident happened.

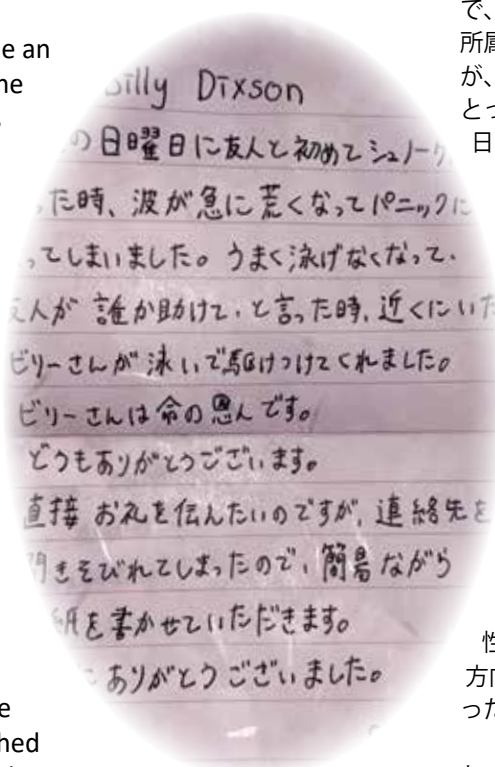
According to Dixon, he heard a scream and rushed towards the voice to find a Japanese lady calling for someone to help for her friend, Ms. Miyagi. Dixon looked at where the person pointed, but did not see anything.

"The fear of the unknown set in," Dixon recalled. "I wasn't sure if I could get to her in time, so I swam to the direction as fast as I could."

With no sight of Miyagi, Dixon dove down three meters and saw her underwater and noticed she had no power left to resurface.

According to Dixon, when he pulled her to the surface, she stopped moving. He conducted the Heimlich Maneuver on her while

swimming backwards and managed to clear her airway



by the time he reached the shore.

Dixon expressed that he was lucky he still had fins on which helped him to swim through the rip current.

His heroic action came to light when Miyagi and her friend delivered a letter of gratitude to the gate of MCAS Futenma about three weeks after the incident. They had found him on a social media by looking up his name which he had given them at the shore.

"As Marines, this is something that is ingrained into us. We stay vigilant and we're always looking to assist," said Dixon.

Story and Photos by Yoshie Makiyama

10月4日、恩納村の西、万座毛の南にある「人魚の洞窟」で、在沖海兵隊普天間航空基地所属の海兵隊員のいつもの週末が、またある地元の海水浴客にとってはより一層忘れられない日となった。

第1海兵航空団の復旧隊長であるビリー・C・ディクソン二等軍曹は、週末をシュノーケリングとダイビングで人気の穴場で過ごしていた。彼が素潜りから引き上げようとした時、事故は起こった。

ディクソン二等軍曹によると、彼は女性の悲鳴を聞いて、その声がする方へ走った。そして、離岸流に巻き込まれた友人のために助けを求めている女性を見つけた。彼は示された方向を見たが、何も見えなかった。

「未知の恐怖が襲ってきました。間に合うかどうかわからなかったのですが、全力でその方向に泳ぎました」とディクソン二等軍曹は振り返る。

溺れているであろう女性が見当たらなかったため、彼は3メ

ートル程潜り、ようやく水面に再浮上しようとする気配のない女性を見つけた。

ディクソン二等軍曹によると、彼が女性を水面に引き上げた時、彼女は動かなくなったという。彼は岸に向かって逆泳ぎをしながら、応急処置のハイムリック法を行い女性の気道を確保することに成功した。

ディクソン二等軍曹は、まだ、足ヒレを付けたままだったことが、離岸流の中を泳いで素早く女性の元まで行くことを可能にしたと言い、幸いだったと話した。

この英雄的な行動が公になったのは事故から約3週間後、救助された女性とその友人が普天間基地飛行場のゲートに感謝状を届けた時だった。彼女らは、彼が岸で名乗った名前をSNSで調べることによって、彼を見つけた。

「海兵隊員として、これは私たちに根付いているものです。私たちは警戒を怠らず、常に何か支援出来ることはないか注意しています」と、ディクソン二等軍曹は語った。

文・写真 横山由江



Staff Sargent Billy C. Dixon receives the Navy and Marine Corps Commendation Medal on Nov. 13 for saving a drowning female at Mermaid's Grotto.

ディクソン二等軍曹が「人魚の洞窟」で溺れている女性を救ったとして、11月13日に海軍と海兵隊の表彰勲章を受賞。

New Year's Greetings from Camp Commanders

基地司令官より新年のご挨拶

Camps Courtney & McTureous

キャンプ・コートニー&マクトリアス



Camp Commander, Col. Matthew R. Nation

On behalf of the Marines, Sailors and families of Camps Courtney and McTureous, I would like to wish each of you happiness, prosperity and good health throughout the New Year. On our third tour to Okinawa, Carrie and I are honored to be members of the community and blessed to have so many friends here.

While COVID-19 has made this past year an especially challenging one, it has also shown that we are indeed fortunate to have such extraordinary neighbors. It is the special relationship shared with the residents of Uruma City, and the surrounding villages that have allowed us to meet the challenges of this turbulent year. Working towards common goals, we have experienced the firsthand results of open and honest communication and lots of hard work. I extend a special Thank You to Mayor Shimabuku, the Uruma City Government, Police, Fire, Okinawa Defense Bureau, and Chamber of Commerce for all that you do.

キャンプ・コートニー&マクトリアス司令官、マシュー・ネーション大佐

コートニー、マクトリアス基地の海兵隊、海軍兵そしてその家族より、皆様方にとって新年がご多幸と繁栄、そしてご健康でありますようお祈りいたします。この3度目の沖縄赴任は、妻キャリアと私にとって、この地域の一員となれましたことを誇りに感じるとともに、ここで数多くの友人と巡り合う機会にも恵まれました。

この一年、新型コロナウイルスは特別な挑戦となりましたが、それはまた我々が素晴らしい近隣の方々と共にあることを認識することとなりました。それは、この混乱の年の課題に対応する我々を受け入れて頂いたうるま市の皆様、そしてその近隣の住民と共有した特別な関係です。共通したゴールに向かい、直接の情報開示や誠実なコミュニケーション、そして多大なる努力を経験しました。特に、島袋市長、うるま市役所、警察署、消防署、沖縄防衛局、商工会には多大なるご尽力を頂き、深心より感謝申し上げます。



MCAS Futenma 普天間航空基地

Camp Commander, Col. Henry Dolberry Jr.

The Marines, sailors, and civilians of Marine Corps Air Station Futenma would like to wish a safe and Happy New Year to our Okinawan family.

All of us at MCAS Futenma are proud and honored to be members of the Okinawan community. Unfortunately, COVID-19 has prevented Futenma and the people of Okinawa from participating in our usual awesome events like the Tuna Cutting Ceremony, Flight-line Fair, and Magic 10 Miler. MCAS Futenma eagerly anticipates the day when we can rejoin our Okinawan family in fun-filled events that build and maintain our bond of friendship.

It is an absolute honor to be part of one of the most amazing and friendliest places on earth. MCAS Futenma is grateful for all of the hospitality and kindness shown by the people of Okinawa. The Marines, sailors, and civilians look forward to sharing a healthy 2021 with the amazing people of Okinawa.

We wish you a joyous and rich New Year! May 2021 bring happiness and prosperity to all of our Okinawan family.

普天間航空基地司令官、ヘンリー・ドーベリー大佐

沖縄県民の皆様へ普天間航空基地所属の海兵隊員、海軍兵、米軍属に日本人従業員より新年のご挨拶を申し上げます。

我々は沖縄の地域住民であることをとても誇りに思い、光栄に思っております。非常に残念ではありますが、現在コロナ禍で恒例のマグロ解体パーティー、フライトラインフェア、マジック10マイルマラソン等といった行事を開催することができません。この状況がいち早く収束し、我々が県民の皆様との友情をさらに築き、維持出来る様々な楽しい行事に参加できる日が来ることを心待ちしております。

この素晴らしく、友情に溢れた沖縄の一員でいられることを非常に光栄に思い、沖縄の方々のおもてなしや優しさに心より感謝申し上げます。実りある2021年を県民の皆様と共有できることを我々は心より願っております。

2021年が県民の皆様にとって喜びに満ち溢れ、幸福と繁栄をもたらすことをご祈念いたします。

From Camp Commanders

新年のご挨拶

Portney & McTureous

トニー & マクトリアス

R. Nation Page 10

トニー・マシュー・ネーション大佐 10ページ



Camp Hansen

キャンプ・ハンセン

Camp Commander, Col. Ray Gerber Page 13

キャンプ・ハンセン司令官、レスター・ガーバー大佐 13ページ

Camp Schwab

キャンプ・シュワブ

Camp Commander, Col. Matthew W. Tracy

Camp Schwab is grateful to be neighbors with our friends in Henoko, Kushi, Toyhara and the surrounding Nago area. The unprecedented challenges of this last year have not dampened our community spirit. By following social distancing guidelines, we continued to teach English classes at local schools and on base. Our community service programs have continued to engage all our Okinawan friends. We shifted our focus to outdoor events and participated in multiple sporting activities with children from local schools. Although we could not have a Halloween party this year, we collected candy from Camp Schwab's service members and dropped it off to the local community center and nursery schools. Lastly, we are expanding our community programs to reach the entire northern area of Okinawa. The Camp looks forward to our continued partnership with the surrounding community.



キャンプ・シュワブ司令官、マシュー・トレーシー大佐

我々は隣接する辺野古、久志及び豊原の久辺三区や他の名護地域の隣人であることを嬉しく思います。今年のような前例のない困難さは、我々の地域共同体意識を鈍らせることはありませんでした。身体的距離のガイドラインを遵守しながらの基地内においての英語講座、地域の学校等での英語指導を続けてまいりました。地域渉外活動を通して、沖縄の友人たちとの関りを継続してきました。屋外活動に焦点を移し、様々なスポーツ活動へ地域の子どもたちと参加しました。今年のハロウィーンは中止を余儀なくされましたが、キャンプシュワブに駐留する隊員から集めたお菓子を、地域のコミュニティセンターと保育園へ届けました。結びに、我々は沖縄北部の全地域へ地域渉外活動を広げていく所存です。これからも隣接する地域社会との協力関係を続けることを楽しみにしています。

MCAS Futenma

普天間航空基地

Camp Commander, Col. Henry Dolberry Jr. Page 10

普天間航空基地司令官、
ヘンリー・ドーベリー大佐 10ページ

monstrated the strength of our
ts this year despite the chal-
se, also numerous camp tours,
r and our local community we

include sporting events,
to Children's Center and camp

oe City International Associa-
prosperous 2021.

この難難を乗り越えるべく、皆様方
きました。てだごウォーク、トライア
理解とご協力を賜り、徹底した公

シップフェスティバル、クリスマス

位の皆様方には地元コミュニテ





HAPPY
NEW
YEAR

New Year's Greetings from

基地司令官より

Camps Courtney & Lester

キャンプ・コートニー&マクトリアス司令官

Camp Commander, Col. Matthew

キャンプ・コートニー&マクトリアス司令官

Camps Foster & Lester

キャンプ・フォスター&レスター

Camp Commander, Col. Jeffrey L. Hammond



Greetings and Happy New Years. 2020 was not the year that we thought it would be, with cancellations to many events that bring us together. In years' past, through the consistent warm display of local customs, like Eisa, Hari, and mochitsuki; our service members have enjoyed a deeper understanding of our neighbors and benefited from the generous hospitality provided by our host nation. As 2021 comes closer, we have strong hopes that we will once again be able to enjoy each other's company and continue to be good neighbors to one another and strengthen our friendship.

Let us continue to help each other, know each other, and enjoy each other's company.

キャンプ・フォスター&レスター司令官、ジェフリー・ハモンド大佐

新春のお慶びを申し上げます。2020年は様々なイベントが中止となり、想像していたのとは異なる年になりました。しかし、その一方で人々はより強く結束いたしました。これまでも地域の皆様の温かいおもてなしのお陰で、私どもはエイサーやハーリー、餅つきなど、地域の伝統行事を楽しませていただくと同時に、地域の方々をより深く理解し、友好関係を築くことができました。これからも協力、理解を深め、楽しい関係を継続していきましょう。

Camp Kinser

キャンプ・キンザー

Camp Commander, Col. Omar J. Randall



Happy New Year from Camp Kinser to our Urasoe and Naha City neighbors and to all our Japanese hosts throughout the Ryukyu Islands.

Camp Kinser is fortunate to have such wonderful neighbors especially in these most challenging times. This year we derived friendship in overcoming challenges. Working together we were able to conduct several time honored community events despite the challenges presented by the COVID-19 pandemic. This year we conducted Tedako Walk, Triathlon, Bike Race, CHINZEI exercise, Okinawan War historical display visits, and camp briefings. Thanks to the great spirit of cooperation between Camp Kinser and our Japanese hosts we were able to conduct these events safely and in a manner respectful of the public health.

In 2021 we seek to host enjoyable events that will continue to strength the bond between our communities. These events include English classes, Tedako Walk, Kinser Friendship Festival and Tree Lighting Ceremony, local clean-up efforts, support to Morinoko tours.

We extend a special thank you to Mayor Matsumoto, the Urasoe City government, the police and fire departments, Chamber of Commerce, Urasoe City Association, the Rotary Club and others for nurturing a cooperative spirit between Camp Kinser and the local community. We look forward to sharing a peaceful and joyful New Year with you.

キャンプ・キンザー司令官、オーマー・ランドル大佐

キャンプキンザーより浦添市、那覇市の皆様、そして琉球列島におられるすべての方々へ新年のお慶びを申し上げます。

キャンプキンザーは素晴らしい近隣地域の皆様へ日頃より感謝の念に堪えません。特に現在のような難難時にはその思いをより確たるものにします。昨年は様々なイベントが中止となり、想像していたのとは異なる年になりました。しかし、その一方で人々はより強く結束いたしました。これまでも地域の皆様の温かいおもてなしのお陰で、私どもはエイサーやハーリー、餅つきなど、地域の伝統行事を楽しませていただくと同時に、地域の方々をより深く理解し、友好関係を築くことができました。これからも協力、理解を深め、楽しい関係を継続していきましょう。

2021年にあたり皆様方との絆をより固くするために、地元交流をより一層深めたいと存じます。スポーツイベント、英語教室、てだこウォーク、キンザーフレンドシップフェスティバル、樹灯式、地域清掃活動、森の子児童センター支援、キャンプツアー等を計画しております。

結びに、松本哲治浦添市市長、浦添市役所、浦添警察署、浦添市消防署、浦添商工会議所、浦添市国際交流協会、浦添ロータリークラブ、その他多くの関係者各

New Year's Greetings from Camp Commanders

基地司令官より新年のご挨拶

Camp Hansen キャンプ・ハンセン



Camp Commander, Col. Ray Gerber

Haisai!

Akemashite Omedeto Gozaimasu. This past year has been a test for all of us. The global pandemic has impacted all of our lives and it will be a year that we long remember. Since taking command this past June, my wife and I have enjoyed the Okinawan spirit and the beauty of this island. Complementing that spirit is the resiliency of the Marines, Sailors, Civilians and our local employees, as well as the resiliency of our neighbors in Kin, Ginoza and Onna. I firmly believe as a group we will persevere and come out of this pandemic stronger than before, together. It is my sincere hope that soon, my wife and I, along with the residents of Camp Hansen, will be able to join you in celebrations and comradery that we have had to postpone due to COVID 19. These events strengthen our friendships and make the Japanese and United States alliance stronger.

The past year has also seen the start of the transformation of Camp Hansen to a newer more modern facility with the new bridge construction to elevate traffic along 329, the new parade deck, and the sports field is well on its way to completion. Along with many other new facilities which will enhance our camp and strengthen our alliance. In the near future we will start construction on a state of the art and modern bachelor housing complex that will increase the quality of life for our residents.

Our Community outreach programs have resumed and will continue to occur as long as the COVID 19 mitigations allow. Camp Hansen has resumed beach cleanups, landscaping projects in several areas between Yaka and the Camp as well as delivering Halloween Candy to four preschools this past October.

On behalf of the Marines, Sailors, Civilians and families of Camp Hansen, I would like to thank all our partner communities for the support they have shown toward the Camp during the past year, and wish everyone a prosperous and very happy New Year to come in 2021.

キャンプ・ハンセン司令官 レスター・"レイ"・ガーバー大佐

ハイサイ!

明けましておめでとうございます。昨年は私たち全ての者にとって試練の一年となりました。新型コロナウイルスの世界的な流行は、我々の生活に大きな影響をもたらし、今後も長く記憶に刻まれる年になることでしょう。昨年6月に着任以来、妻共々私たちがこの島の美しさや沖縄の心を楽しめているのは、海兵隊員、海軍兵、その家族や軍属また民間基地従業員全ての皆様の日々の努力のおかげであり、キャンプハンセン近隣町村である金武町、宜野座村及び恩納村の住民の方たちのご協力に他なりません。我々は感染症に屈せず、より強く皆一丸となり、現状を共に打破できることを強く信じています。私や妻そしてキャンプハンセンの海兵隊員は、新型コロナウイルスが原因で延期せざるおえなかった様々なイベントが、近い将来再開可能となり、地域の皆様との交流を深めながら友情を育み、日米同盟のさらなる発展に繋げていけることを、心から願っております。

昨年はキャンプハンセンにおいて、より新しく近代的な変化が始まる年となり、国道329号線のハンセン関連の交通量を減らすための橋梁工事をはじめ、新パレード広場やスポーツフィールド等が完成に向け動きだしているところです。他にも数多くの新施設プロジェクトが進行中であり、基地機能そして我々の同盟の向上に一役買うことでしょう。

近い将来、最先端の単身者用複合兵舎の建設が予定されており、ハンセンに居住する海兵隊員の生活の質の向上も期待されています。

新型コロナ対策をしっかりと取りながら、地域でのボランティア活動も再開しました。ビーチクリーンアップや屋嘉区を始め金武町内数か所での草刈り、昨年10月には町内4カ所の保育園・こども園にてハロウィーンのお菓子配りを行いました。

昨年中お世話になった地元地域全ての皆様のキャンプハンセンへのご理解、ご協力に対し海兵隊員、海軍兵、民間人従業員、そして家族一同心より感謝申し上げます。そして2021年が皆様にとって、実り多く 幸せに満ちた年となることを祈念致します。



ベクテル小の父母、近隣学童でカボチャくり貫き実演、ハロウィーン感じて



A volunteer demonstrates carving the pumpkin. カボチャくり抜き実演を披露するボランティアベクテル小学校の父母。

新型コロナウイルスが蔓延を防ぐため細心の注意を払って、ベクテル小学校の6人の保護者が、ハロウィーン3日前の10月28日に沖縄市の学童保育施設を訪れた。文化的意識促進の一環としてハロウィーンのシンボルともいえる飾り物であるカボチャを彫るためだ。

今年のハロウィーンが近づくなか、キャンプ・コートニーとマクトリアスの梅原一郎渉外官とキャンプ・マクトリアスにあるベクテル小学校の諮問委員会の委員長であるカイリー・ジェンセンさんが調整した結果だ。

「過去数年間、諮問委員会はハロウィーンの夜にトランク・オア・トリート（トランクにハロウィーンの装飾を施した自動車を並べ、そこで子供たちにお菓子を配るイベント）を主催し、ハロウィーンの伝統を知ってもらおうと地元学校に通っていました」とジェンセンさんは言った。「今年も地元の子供たちと文化を共有

し続ける方法を模索していました。」梅原渉外官はコロナ禍のために全ての人が祝日を祝うにあたって安全を確保するための指針に従わなければならないと言った。

「緊密な接触を避けなければならなかったため、いつものような大規模なハロウィーンを行うことができませんでした。イベントをやめる必要があるのではないかと心配しました」と梅原渉外官は振り返り、イベントが無事実施出来たことに胸を撫で下ろした。

ちばな学童クラブ施設長の田中康和さんによると、沖縄で人気の観光スポットのひとつである植物園に隣接しているおかげで、コロナ禍以前にはほぼ毎日他国からの観光客に会っていたため、子供たちは外国人に慣れていた。

田中さんは、近くの小学校に通っている1年生から3年生までの34人の児童の父母に、基地にある小学校

の父母がハロウィーンでカボチャを彫るデモンストラーションをするために施設を訪問することを知らせた。ボランティアの父母を学童たちに紹介した後、梅原渉外官はハロウィーンの起源を説明した。ボランティアの父母はハロウィーンの絵を子供たちに見せた。

「蜘蛛、猫！」子供たちは答えた。最後の絵は「ジャック・オー・ランタン」だった。しかし「ジャック・オー・ランタン」とは何かを知っている児童がほとんどいなかったため、梅原渉外官は不気味感を出すため声の調子を下げ、きちんとジャックについて話した。ジャック・オー・ランタンの説明の終わりに、何人かの子供たちは息を呑んだ。

「ハロウィーンやジャック・オー・ランタンの由来を教えることができなくて良かった」と田中さんは言う。「歴史を知ることが重要です。そうすれば、子供たちはもっと良く理解する

ことができます。」

ハロウィーンについての紹介後、1人のボランティアが大きなオレンジ色のカボチャを持ってきた。梅原渉外官は、児童にボランティアの父母がこのカボチャでジャック・オー・ランタンを作るので、どのように彫るかを観察しよう説明した。「食べられますか？」子供が興味津々に尋ねた。梅原渉外官は笑顔で「いいえ」と答えた。

学童たちがカボチャがくり貫かれていく様子をじっと見つめている間、ボランティアの父母はずっと彫り進めた。彼女はカボチャをきれいに彫り、中を空にした。そして、学童たちに見せたとき、学童たちはみな興奮した。

「カボチャのてっぺんを外して、『内臓』が引っ張り出されるときに、子供たちの顔がぱっと輝くのを見るこ



A child pushes an eye through after carving it out.
膨った目を押し抜く子供。

► school during the day, that parents from the on-base school were visiting the day care to show their demonstration of carving a pumpkin for Halloween.

After introducing volunteers to children, Umehara explained the origin of Halloween. The volunteers showed the children flash cards with common Halloween images.

"Spider, cat!" the children yelled out.

The last image was jack-o'-lantern, but only a few children knew what jack-o'-lantern was. Umehara lowered the tone of his voice to set a spooky mood and told children about Stingy Jack. After explaining the origins of the jack-o'-lantern, some children gasped.

"Teaching the origin of Halloween and jack-o'-lantern was good," Tanaka said. "It's important to know the history, so the children can have better understanding."

After the introduction of Halloween, a volunteer brought a big orange pumpkin. Umehara told children that it would turn into a jack-o'-lantern, and they

will get to see the process.

"Can we eat it?" a child asked excitedly. Umehara replied with a stern "No."

The volunteer started carving while all the children gazed at her. She carved the pumpkin neatly and made it hollow. When she showed the inside of hollowed-out pumpkin to the children, everyone got excited.

"It is always fun to see children's faces light up in fascination when you pull out the top of the pumpkin and the 'guts' hang out," said Jensen.

A child was picked to carve the last part for jack-o'-lantern. He, with a help from the volunteer, carved an eye out and pushed it through. After a teacher put a candle inside and lit it up, the children cheered.

"The event was a success," said Jensen. She stated that the committee reached out to the care center to share parts of their culture and traditions to better understand each other and hoped that this partnership of sharing creates stronger bonds between the peoples of both countries.

Story and Photo by Yoshie Makiyama

◀ 14ページから
とはいつも楽しいです」とジェンセンさんは言った。
ジャック・オー・ランタンが完成する直前最後の部分を彫るために子供が選ばれた。彼は、ボランティアの助けを借りて、目を彫り、それをくり抜いた。先生がろうそくをジャック・オー・ランタンの中に入れ、火をつける子どもたちは歓声を上げた。
ジェンセンさんは、イベントは成功だと言った。彼女は、お互いをさらによく理解するために委員会がアメリカの文化と伝統の一部を共有したいと学童保育施設に連絡を入れたと述べ、分かち合いという相互関係が日本とアメリカの人々の間でより強い絆を作り出すことを願った。

文・写真 横山由江



A volunteer shows children the hollowed-out pumpkin.
子供たちに中が空洞になったカボチャを見せるボランティア。



Ichiro Umehara, community relations specialist for Camps Courtney and McTureous, introduces parents from Bechtel Elementary School to the children of Chibana School Age Care Center.

ベクトル小学校の父母をちばな学童クラブの子供たちには紹介する キャンプ・コートニーとマクトリアスの梅原一郎渉外官

Bechtel ES parents share Halloween culture with local daycare, carve jack-o'-lantern

With the extra care for preventing the spread of COVID-19, six parents from Bechtel Elementary School visited a school age care center in Okinawa Oct. 28, to demonstrate a pumpkin carving and share the culture of Halloween.

Ichiro Umehara, community relations specialist for Camps Courtney and McTureous, coordinated with Kiley Jensen, the chair for the Bechtel School Advisory Committee of Elementary School on Camp McTureous when this year's Halloween was approaching.

"In past years, SAC has hosted Trunk-or-Treats on Halloween evening and also went to some local Japanese schools to teach out our Halloween traditions," said Jensen. "We were seeking some way to still continue sharing culture with local

children this year."

With the ongoing pandemic, everyone had to follow specific guidelines in order to safely celebrate the holiday, according to Umehara.

"We had to avoid close contact, so we couldn't do a big scale Halloween like usual. I was afraid that we

might have to give up doing any events," said Umehara.

Thanks to its location next to a botanical garden, one of Okinawa's popular tourist spot, the children of Chibana School Age Care Center are familiar with foreigners since they used to see tourists from other countries

almost every day before the COVID-19 pandemic, according to Yasukazu Tanaka, the director of Chibana School Age Care Center.

Tanaka informed parents of 34 children, first grade to third grade, who attend at the nearby elementary ▶



The volunteers show the children flash cards with common Halloween images.
ハロウィーンの絵を子供たちに見せる ベクトル小学校ボランティアの父母。



平和学習を考える - 地元教育関係者、キンザー沖縄戦歴史資料館を視察



Makoto Sueki, Head of Seika Gakuen, feels the texture of the flight suit American pilot wore during the war.
アメリカ人パイロットが着用したスーツの素材に触れる
精華学園高等学校の末木誠校長。

さえ展示されていた。あちらこちらに天井から模型飛行機が吊り下げられていた。久場渉外官はそれらの飛行機が沖縄の各地域で繰り広げられていた戦闘上空を飛んでいた飛行機であると説明した。

久場渉外官はフライトスーツの陳列の前で立ち止まった。彼女は2人に日本人パイロットとアメリカ人パイロットが着用した両方のスーツの素材に触れるように促した。そこは戦時中の両国を比較する珍しい体験ができるスポットの一つである。

「沖縄の英語教育を考える会」会長で沖縄大学客員教授である大城浩さんは、浦添の前田高地の激戦地で衛生兵が所持していた装備品を展示しているコーナーにおいて、「生徒達が、事前に前田高地を舞台にした映画を見て、その後資料館を訪れることも平和学習の新しい方法かもしれない」と述べた。

戦後復興コーナーの後、両陣の手榴弾と地雷の展示で資料館の全ての展示品は終了した。久場渉外官は、両国の国力の違いの例として、日本の手榴弾と地雷の均一性の欠如を説明した。

「歴史は教科書の単なる物語ではなく、ここにある遺品を見ると、それらが本物であると感じることが出来ます。この場所が生徒達が平和について自分達何が出来るか考えるきっかけや、人生における何かしらの気づきの助けとなることを願っています」と久場渉外官は最後に話した。

キンザー沖縄戦歴史資料館は1945年の戦いの遺物、レプリカ、写真のコレクションを展示しているが、創設者であるデイブ・タベンポートは、資料館が過去、現在、未来を繋ぐものになることを望んでいた。資料館は彼が願ったように機能するようだ。

7月7日、2人の地元の教育関係者が、資料館を訪れた。彼らは、より効果的な平和学習を行うための手段を模索しており、この訪問は資料館が生徒達の主体的な学びの手助けになるのかを確かめるためだった。

浦添市にある学校法人山口精華学園精華学園高等学校の末木誠校長は、「今日の多くの子どもたちは他者に依存しているものの、他者との交流は苦手です」と語った。

「社会に溶け込むのに苦労しています。日常とは違う、心に触れる何かを見てもりたいと思います。平和学習の環境としてこの資料館を訪れる事は良い機会です。」

キンザー基地渉外官の久場一乃さんは、資料館の展示品は触れて質感や重さを体感できると伝えた。「実際に見て触れることにより、戦争がよりリアルになり、学生はそこから何かを感じる事ができるかもしれません。」

展示は沖縄戦前に沖縄の人々が使っていた農具を紹介することから始まった。久場渉外官によると、そのような道具が戦争時には学徒隊の防衛の練習用具になったことを表すためだと言った。

戦争の遺品だけでなく、写真、ポスター、さらには読谷上陸作戦の戦術地図

sides. Kuba explained the lack of uniformity in Japanese grenades and landmines as an example of the differences in the two countries' national power.

"History is not just a story in the textbook but seeing the artifacts here, you can feel that they were real," expressed Kuba. "I hope this place can assist students to think about what they can do to promote peace, and be useful to them in order to bring awareness to their life."

Story and Photos by Yoshie Makiyama

► model planes were hung from the ceiling. Kuba explained that those planes were flying overhead at the time and location of each battle and were displayed accordingly.

Kuba stopped in front of displays of flight suits. She asked visitors to touch the materials of both suits which were worn by a Japanese pilot and an American pilot. It was one of the spots where guests could have a rare experience comparing both countries during the war.

Hiroshi Oshiro, president of Okinawa

Association of English Education Inc. and visiting professor of Okinawa University said, when the group was at the corner where the equipment hygienists carried at the battle of Hacksaw Ridge was displayed, "having students watch the movie first and bring them to the Kinser Battle of Okinawa Historical display could be good additional material for peace studies."

After the postwar reconstruction corner, the display ended with grenades and landmines from both



Ichino Kuba, community relations specialist for Camp Kinser, tells a story in front of the showcase of the battle of Hacksaw Ridge.

浦添市前田高地の激戦地の展示品の前で話すキャンプ・キンザー久場一乃渉外官。

Thinking of peace studies: Local educators visit Kinser Battle of Okinawa Historical display

The Kinser Battle of Okinawa Historical Display exhibits collections of artifacts, replicas and photos from the battle fought in 1945. The founder of the display, Dave Davenport, hoped it would provide a connection between the past, the present, and the future. It seems to serve as he had wished.

Two local educators visited the display on July 7 to find out if the place could inspire their students to start thinking more critically. They were trying to explore options for effective

ways to teach their students about peace.

"A lot of children nowadays need support of others, but they have poor social skills and lack initiative," said Makoto Sueki, head of Seika Gakuen, an educational institute in Urasoe city, Okinawa.

"They have a hard time blending themselves into society. I want them to see things different from their daily life that may touch their heart, and visiting this display gives them such an

opportunity while conducting peace studies," Sueki continued.

Ichino Kuba, community relations specialist for Camp Kinser, informed visitors that they could touch some of the displays to feel the textures or weight of the items. "Actually seeing and touching makes war more realistic and students may be able to sense something from the items when they visit."

The display started with items from prior to the battle of Okinawa by showing the agricultural tools people of Okinawa used. According to Kuba, it was to show that these same tools later became training equipment for the student corps during the time of war.

There were pictures, posters and even the tactical map of the Yomitan Amphibious Landing Operation, not just war relics. Here and there, the



The display of grenades and landmines from both U.S. and Japan.
両陣の手榴弾と地雷の陳列棚。

沿道草刈り、海兵隊員地域美化に意義見出す

晴れているが湿気が多い10月21日の午後1時、在沖海兵隊キャンプ・ハンセンに拠点を置く第9工兵支援大隊の15人の隊員は国道329号線沿いに集まった。蒸し暑い中、待機している通りの向かいには、素敵なビーチが彼らを待っているかのよう



The Marines listen to closing remarks of Petty Officer 1st Class Marc R. Sablatura, religious program assistant.

部隊専属牧師助手のマーク・R・サブラトゥラー等兵曹の閉会の挨拶に耳を傾ける 隊員達。

だった。しかし、隊員は楽しむためではなく、深々と生い茂った雑草と戦うためそこにいた。

隊員らによると、金武町の屋嘉地区の国道329号線沿いの一画は、脊高く成長した雑草が、運転手の視界の妨げとなり、ヘビの生息地にもなりえるくらい通行人とって危険そうに見えた。

しばらくして、金武町社会福祉協議会が草刈り機と熊手を届けた。隊員は次々と道具を手につけた。彼らの多くが、草刈り機を使うことは初めての経験だったので使用方法と安全についての説明がなされた。その後、隊員らはさっそく広がり、除草を開始しようとした。普段手にすることのない新しい道具に戸惑いを見せていた隊員らも、すぐにその使用方法をマスターした。

「楽しかったです。これまで草刈り機を使ったことはありませんが、動かし方のコツが分かれば、草を簡単に刈っていきます」と沖繩に来たばかりで最近隔離措置が終わったマリヤ・クルーズルズ上等兵は草刈り機の使い方のコツを説明した。

The grass from the park fills the truck bed. 公園の雑草でいっぱいになったトラックの荷台。



続き、トラックの荷台いっぱいの雑草3回以上を除草した。

同大隊のスコット・R・メイナード二等軍曹は、ボランティア活動への参加について問われた時、「沖繩では、私たちは訪問者であり、お世話になっている島を私達が綺麗することは当然です。これで地域社会に貢献できるならば嬉しいですよ」と語った。

美化作業を締め括るにあたり、部隊専属牧師のエリック・C・ハント米海軍大尉は、隊員に海岸に打ち上げられた無数のヒトデとそのヒトデを海に投げ返す一人の子供についての話をした。土地の規模から言えば彼らがその日取り組んだ範囲は取るに足らないサイズかも知れないが、隊員がした事は良いことだと労をねぎらい、今回の活動は誰かのためになっていると強調した。

「この近辺は多くが高齢者地域であり、雑草の除草手段を常に持っているわけではないので、我々がそれを行います。これは我々にとってためになることです」と部隊専属牧師助手のマーク・R・サブラトゥラー一等兵曹は話した。2月に新型コロナウイルス感染症のために部隊が全ての対外活動を停止して以来、この草刈り作業は最初のボランティア活動だった。

▶ elderly communities and they don't always have the resources to take care of their lawns, so we do it. It reflects well on us," remarked Petty Officer 1st Class Marc R. Sablatura, religious program assistant. According to Sablatura, this was the first volunteer opportunity since the unit

had put all activities on hold due to COVID-19 in February. "As a district worker, I really appreciate the Marines cleaning up where children play," said Atsushi Kinjo, an accountant from Yaka district office who joined the beautification at the park.

Story and Photos by Yoshie Makiyama

んは、「子供たちが遊ぶ場所を海兵隊員が綺麗にして、地域の職員として本当に感謝しています」と述べた。

文・写真 横山由江



The area after the beautification. 除草後の一画。



Marines see the significance in road-side beautification

At 1 p.m. on a sunny but humid afternoon, 15 Marines from 9th Engineer Support Battalion based at Camp Hansen gathered alongside Route 329 Oct. 21. As they waited outside in the muggy weather, they could see an inviting beach across the street. However, they were not there to have fun but to fight back the overgrown vegetation in the area.

The Marines identified an area of Route 329 in the Yaka district of Kin where the grass and weeds had grown out of control and created an unsafe area for passersby as it blocked driver's view and could also

be a habitat of dangerous snakes.

After a short while of waiting, the Kin Town Social Welfare Association brought weed eaters and rakes. Volunteers took equipment one after another. For many, it was their first time using a weed eater. After a short period of instruction on how to use the equipment safely the Marines spread out to get started. Some of the volunteers struggled at first with the new tools they do not usually handle, but they learned quickly .

"It was fun. I had never used weed eaters before but as long as you know how to move it around, you

can manage to get it," Pfc. Maria Cruzruyz, who is new to Okinawa and recently completed her quarantine, explained how she controlled the weed eater.

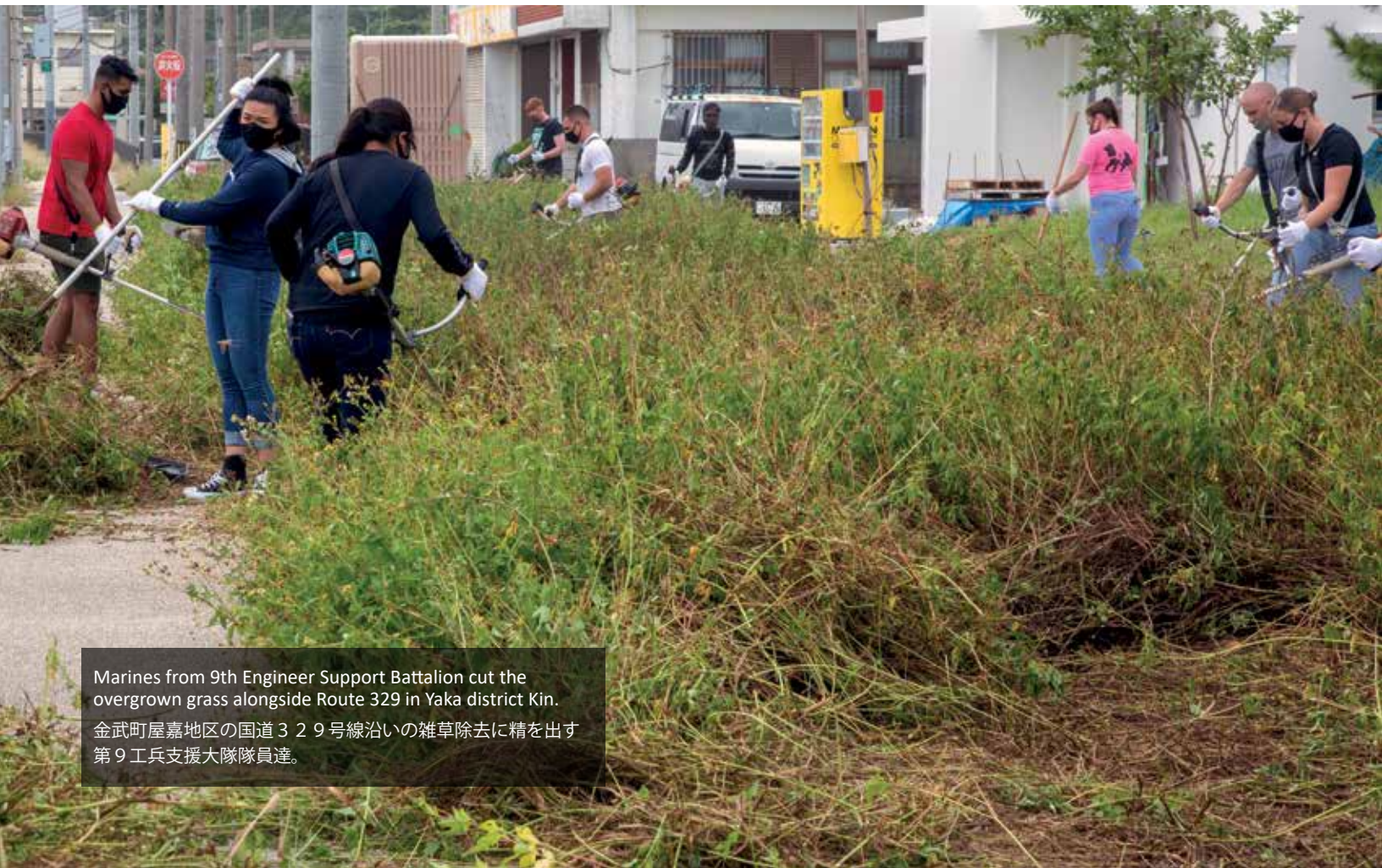
Once the grass and weeds alongside the main road were taken care of, volunteers moved on to a nearby park. With all 15 Marines working together, the park was done in a short time. After fighting with grass and weeds for two-and-a-half hours, the Marines finally finished. They had more than three truck loads of cut grass and weeds.

"In Okinawa, we are visitors and it's nice to take

care of the island we are on, and nice to give back to a community and to look after." said Staff Sgt. Scott R. Maynard when questioned about participating in the volunteer activity.

At the end of the beautification, Navy Lt. Erik C. Hunt, the unit chaplain, told his Marines a parable about countless starfish on a beach and a child throwing them back to let them know what they did was good even it may look like an insignificant amount compared to the large scale of land, but they did good for somebody.

"These communities going down 329 are a lot of ▶



Marines from 9th Engineer Support Battalion cut the overgrown grass alongside Route 329 in Yaka district Kin.

金武町屋嘉地区の国道329号線沿いの雑草除去に精を出す第9工兵支援大隊隊員達。

The Holiday Extravaganza parade
ホリデー・エクストラバガンザ・パレード

Children wave at Santa Claus during the Holiday Extravaganza parade hosted by Marine Corps Community Services on Camp Foster, Okinawa, Japan, Dec. 12, 2020.

海兵隊コミュニティサービス主催のホリデー・エクストラバガンザ・パレードでサンタクロースに手を振る子供たち
= 2020年12月12日、キャンプ・フォスター

(Photo by Lance Cpl. Faith Rose)

Big Circle

大きな輪

Big Circle is an authorized publication of the United States Marine Corps. However, the contents of Big Circle are not necessarily official views of, or endorsed by, the Marine Corps, U.S. Government, or Department of Defense. It is published quarterly by the Communication Strategy and Operations, Marine Corps Installations Pacific. Big Circle is on the Web at <https://www.dvidshub.net/publication/1184/the-big-circle>.

E-mail subscriptions to this publication are available online by subscribing via <https://www.dvidshub.net/publication/1184/the-big-circle>. Subscribers will receive an e-mail when the latest issue has been published on the Web. The publication can be viewed in PDF format online or downloaded.

「大きな輪」は、米国海兵隊認可の機関誌です。ただし、「大きな輪」の内容は、必ずしも海兵隊や米国政府、米国防総省の公式見解であるとは限りません。当機関誌はキャンプ・バトラー米海兵隊太平洋基地広報企画運用部 (COMMSTRAT) が3ヶ月ごとに発行しています。大きな輪のウェブアドレスは <https://www.dvidshub.net/publication/1184/the-big-circle>。

当機関誌ウェブ版をご希望の方は、上記ウェブサイトにご購読をお申し込みください。お申し込みされた方は、ウェブ上に新刊が掲載されると、通知メールを受信するようになっています。ウェブ版はPDF形式で、インターネットで閲覧、またはダウンロードすることができます。

Commanding General

Brig. Gen. William J. Bowers

Communication Strategy and Operations Director

Lt. Col. Matthew H. Hilton

Communication Strategy and Operations Deputy Director

1st Lt. Timothy A. Hayes

Managing Editor

Yoshie Makiyama

Editorial Support

Toshiyuki Nakamoto
Matthew J. Manning
Megumi Handa

International phone

011-81-98-970-1220

International fax

011-81-98-970-3803

Mailing Address

MCB Camp S.D. Butler
Bldg. #1, COMMSTRAT
Unit 35001
FPO AP 96373-5001

Phone

(098) 970-1220

FAX

(098) 970-3803

Email

okinawa.mcbb.fct@usmc.mil

BIG CIRCLE

大きな輪



HAPPY NEW YEAR
FROM BIG CIRCLE